



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 日清製粉グループ本社  
コード番号 2002 URL <http://www.nisshin.com>

代表者 (役職名) 取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 総務本部広報部長  
四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

(氏名) 大枝 宏之  
(氏名) 町田 英樹

TEL 03-5282-6650

配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	135,923	△2.6	5,184	3.6	7,227	4.3	5,252	13.4
28年3月期第1四半期	139,610	15.4	5,003	25.7	6,926	21.6	4,630	43.3

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 3,427百万円 (△56.2%) 28年3月期第1四半期 7,819百万円 (19.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	17.41	17.38
28年3月期第1四半期	15.37	15.34

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	541,967	386,042	68.9
28年3月期	550,305	386,485	67.8

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 373,212百万円 28年3月期 373,375百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	278,000	0.6	10,800	3.8	12,900	0.8	8,700	4.3	28.84
通期	560,000	0.6	24,300	2.2	28,300	0.7	18,700	6.5	61.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、【添付資料】P. 4「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、【添付資料】P. 4「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期1Q	304,357,891 株	28年3月期	304,357,891 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

29年3月期1Q	2,628,566 株	28年3月期	2,674,306 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	301,712,464 株	28年3月期1Q	301,312,083 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、【添付資料】P. 3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2)決算補足説明資料につきましては、当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## [当第1四半期の概況]

当第1四半期につきましては、緩やかな景気回復の動きが見られていたものの、中国をはじめとする新興国の経済減速や英国のEU離脱問題等により世界経済の不透明感が強まり、国内においても、消費マインドには足踏みが見られるなど先行きが懸念される状況が続きました。

このような中、当社グループは、昨年5月に公表した2020年度を最終年度とする新経営計画「NNI-120 II」に基づき、コア事業の収益基盤の再構築に注力すると同時に、買収事業を含めた自立的成長と新規戦略投資等の実行により、着実な利益成長を目指すとともに、積極的な株主還元に取り組んでおります。

当社グループ各事業におきましては、市場の活性化に向け積極的な新製品の上市・拡販に取り組むとともに、製粉事業では臨海大型工場への生産集約、加工食品事業ではグローバルな最適生産体制の構築等、国内外でコスト競争力を強化し、引き続き事業基盤強化に努めました。また、スポーツ協賛等を通じた当社のブランド価値向上の取り組みや積極的な広告宣伝活動を展開しました。

これらの結果、売上高は主に原料小麦価格の低下を反映し、1,359億23百万円（前年同期比97.4%）となりましたが、利益面では、営業利益は51億84百万円（前年同期比103.6%）、経常利益は72億27百万円（前年同期比104.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は52億52百万円（前年同期比113.4%）と増益となりました。

## [セグメント別営業概況]

## ①製粉事業

製粉事業につきましては、積極的な拡販施策を実施し新規顧客の獲得を進めましたが、主に小麦粉価格改定に伴う需要変動の影響により、国内業務用小麦粉の出荷は前年を下回りました。

なお、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で7.1%引き下げられたことを受け、7月に業務用小麦粉の価格改定を実施しております。

生産・物流面では、臨海大型工場への生産集約による生産性向上及び固定費削減等の取り組みを推進するとともに、本年6月には鶴見工場の原料小麦サイロ収容力25%増設工事が完了し、従来以上に需要に即した原料小麦の確保と保管及び安定供給を実現する体制が整いました。

副製品であるふすまにつきましては、価格は軟調に推移しました。

海外事業につきましては、積極的な拡販により全体としては出荷が増加したものの、原料小麦価格の低下を反映し、売上は前年を下回りました。また、北米西海岸地域における需要増を見据えた、Rogers Foods Ltd. チリワック工場（バンクーバー近郊）の生産能力80%増強工事は、平成29年秋の稼働予定で、順調に進捗しております。

この結果、製粉事業の売上高は614億79百万円（前年同期比91.9%）となりましたが、営業利益は、20億22百万円（前年同期比112.3%）となりました。

## ②食品事業

加工食品事業につきましては、家庭用では、生活者の個食化・簡便化等のニーズに応え、好評をいただいているボトルタイプシリーズの新製品「日清 いろいろ作れるから揚げ粉」を発売し、テレビCMをはじめとした広告宣伝活動等、消費を喚起する施策を積極的に実施しました。また、業務用では、顧客ニーズに合わせた新製品の投入、新規顧客獲得に向けた積極的な提案活動を実施しました。中食・惣菜につきましては、幅広いラインアップによる総合惣菜事業を展開し、順調に拡大しております。この結果、消費者の節約志向は継続しているものの、家庭用新製品、中食・惣菜等の出荷が好調に推移したことや本年1月に子会社化した(株)ジョイアス・フーズの連結効果もあり、加工食品事業全体としては、売上は前年を上回りました。

海外事業につきましては、東南アジア市場での競争激化により、売上は前年を下回りました。なお、コスト競争力を有するグローバルな最適生産体制の構築に向けて建設したベトナムのパスタソース等の調理加工食品工場、トルコのパスタ工場は順調に稼働しております。

酵母・バイオ事業につきましては、バイオ事業で出荷時期のずれ込みがあり、売上は前年を下回りました。

健康食品事業につきましては、積極的な販売促進施策により消費者向け製品の販売は堅調に推移しましたが、医薬品原薬の需要変動により、売上げは前年を下回りました。

この結果、食品事業の売上高は647億7百万円（前年同期比103.9%）、営業利益は26億77百万円（前年同期比94.6%）となりました。

### ③その他事業

ペットフード事業につきましては、積極的な新製品の投入やテレビCMの実施など拡販に努めた結果、J Pスタイルブランド等の高付加価値製品の出荷が好調に推移し、売上げは前年を上回りました。

エンジニアリング事業につきましては、主力のプラントエンジニアリングにおいて受注が伸び悩み、売上げは前年を下回りました。

メッシュクロス事業につきましては、売上げは前年並みとなりました。

この結果、その他事業の売上高は97億37百万円（前年同期比93.3%）、営業利益は3億66百万円（前年同期比94.3%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりです。

流動資産は2,291億56百万円で、受取手形及び売掛金の減少等により、前年度末に比べ42億42百万円減少しました。固定資産は3,128億10百万円で、主に有無形固定資産の減少により、前年度末に比べ40億96百万円減少しました。この結果、総資産は5,419億67百万円で前年度末に比べ83億38百万円減少しました。また、流動負債は972億90百万円で、支払手形及び買掛金と短期借入金の減少等により、前年度末に比べ95億12百万円減少しました。固定負債は586億34百万円で、長期借入金と繰延税金負債の増加等により、前年度末に比べ16億16百万円増加しました。この結果、負債は合計1,559億24百万円で前年度末に比べ78億95百万円減少しました。純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益による増加と配当金の支出による減少、その他の包括利益累計額の減少等により、前年度末に比べ4億42百万円減少し、3,860億42百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

我が国の経済は、不安定な海外情勢や急激な為替変動等による輸出企業の業績悪化影響など、先行きが懸念されております。当社グループを取り巻く環境につきましても、消費者の節約志向の継続等により、引き続き厳しいことが予想されます。このような環境下におきましても、当社グループは小麦粉をはじめとする安全・安心な「食」の安定供給という使命を果たしてまいります。また、新経営計画「NNI-120 II」で策定した戦略を着実に遂行し、各事業においてお客様視点に立った新製品の開発や広告宣伝活動等の販売促進施策及び生産性向上等のコスト削減に取り組むとともに、海外事業の拡大を推進してまいります。

さらに、昨年10月に大筋合意されたTPP（環太平洋経済連携協定）交渉は、当社関連業界への影響が想定されることから、引き続き動向を注視し、適切に対応してまいります。

平成29年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は5,600億円（前期比100.6%）、営業利益は243億円（前期比102.2%）、経常利益は283億円（前期比100.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は187億円（前期比106.5%）と、当初予想を据え置いております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を40%以上とする新経営計画の基本方針のもと、当初の予想通り、前期より2円増額の1株当たり年間26円を予定しております。これにより、実質的に4期連続の増配となる予定であります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

（連結子会社の決算日の変更）

連結財務諸表のより適正な開示を図るため、当第1四半期連結会計期間より、連結子会社のうち決算日が12月31日であった(株)ジョイアス・フーズは、決算日を3月31日に変更しております。

この決算期変更に伴い、当該子会社の企業結合日である平成28年1月29日から平成28年3月31日までの損益は、利益剰余金の増減として調整しております。

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	61,665	72,069
受取手形及び売掛金	72,871	66,545
有価証券	13,790	6,527
たな卸資産	72,038	68,201
その他	13,242	16,001
貸倒引当金	△210	△189
流動資産合計	233,398	229,156
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	56,657	58,271
機械装置及び運搬具(純額)	43,079	42,076
土地	42,152	41,626
その他(純額)	9,450	6,835
有形固定資産合計	151,339	148,809
無形固定資産		
のれん	8,610	7,754
その他	9,879	9,065
無形固定資産合計	18,489	16,820
投資その他の資産		
投資有価証券	140,347	140,114
その他	6,854	7,189
貸倒引当金	△124	△124
投資その他の資産合計	147,077	147,180
固定資産合計	316,907	312,810
資産合計	550,305	541,967

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	51,348	46,897
短期借入金	15,219	12,231
未払法人税等	5,227	1,866
引当金	238	72
未払費用	18,534	15,849
その他	16,233	20,373
流動負債合計	106,802	97,290
固定負債		
長期借入金	4,386	5,226
引当金	1,521	1,569
退職給付に係る負債	21,892	21,536
繰延税金負債	22,621	23,616
その他	6,595	6,685
固定負債合計	57,017	58,634
負債合計	163,820	155,924
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,117	17,117
資本剰余金	12,834	12,842
利益剰余金	281,324	282,875
自己株式	△2,289	△2,249
株主資本合計	308,987	310,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	55,974	57,861
繰延ヘッジ損益	△301	△417
為替換算調整勘定	9,859	6,301
退職給付に係る調整累計額	△1,144	△1,119
その他の包括利益累計額合計	64,387	62,626
新株予約権	147	155
非支配株主持分	12,962	12,674
純資産合計	386,485	386,042
負債純資産合計	550,305	541,967



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	139,610	135,923
売上原価	101,405	96,407
売上総利益	38,205	39,516
販売費及び一般管理費	33,201	34,331
営業利益	5,003	5,184
営業外収益		
受取利息	48	37
受取配当金	1,273	1,254
持分法による投資利益	436	768
その他	235	160
営業外収益合計	1,993	2,221
営業外費用		
支払利息	44	55
為替差損	—	102
その他	26	21
営業外費用合計	70	178
経常利益	6,926	7,227
特別利益		
固定資産売却益	—	42
投資有価証券売却益	6	357
特別利益合計	6	399
特別損失		
固定資産除却損	109	42
特別損失合計	109	42
税金等調整前四半期純利益	6,823	7,584
法人税等	1,966	2,044
四半期純利益	4,857	5,539
非支配株主に帰属する四半期純利益	226	287
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,630	5,252

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	4,857	5,539
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,160	1,898
繰延ヘッジ損益	△32	△106
為替換算調整勘定	△261	△3,828
退職給付に係る調整額	64	51
持分法適用会社に対する持分相当額	32	△126
その他の包括利益合計	2,962	△2,111
四半期包括利益	7,819	3,427
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,575	3,491
非支配株主に係る四半期包括利益	244	△63

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	66,925	62,250	129,176	10,433	139,610	—	139,610
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,720	123	4,844	1,607	6,451	△6,451	—
計	71,646	62,374	134,021	12,041	146,062	△6,451	139,610
セグメント利益	1,801	2,829	4,631	389	5,020	△16	5,003

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとののれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、「製粉」セグメントにおいて、1,252百万円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	61,479	64,707	126,186	9,737	135,923	—	135,923
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,604	121	4,726	643	5,369	△5,369	—
計	66,084	64,828	130,912	10,380	141,293	△5,369	135,923
セグメント利益	2,022	2,677	4,700	366	5,067	117	5,184

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。